

通 教 月 報

診 療 情 報 管 理 研 究

令和 4 (2022) 年 11 月号

編 集 武田 隆久  
発 行 人 〒102-8414 東京都千代田区三番町 9-15  
一般社団法人 日本病院会 教育部教育課  
TEL 03-5215-6647 (受講生専用)  
FAX 03-5215-6648 (受講生専用)  
URL <https://jha-e.jp/>  
受付時間 10:00~17:00  
(ただし、土・日・祝祭日、年末年始は除く)  
発 行 日 毎月 1 日



## 医療も介護もデータを利活用する時代へ

星 賢一

社会福祉法人高尚会特別養護老人ホームほほえみ 施設長

2003年にDPC制度が導入され、医療ではデータの利活用が進みました。介護でも2021年4月の介護報酬改定において「科学的介護情報システム(LIFE)」が導入され、データの利活用が始められようとしています。これは根拠に基づく介護を推進し、介護の質をより向上させていくことが目的です。医学とは異なり、生活全般のサポートを目的とする介護では、これまで「根拠に基づいて介護(ケア)を提供する」という概念は殆どありませんでした。これからはベテランスタッフの勘や経験に頼らず、根拠に基づく介護(ケア)を導入し、介護の質をより向上しようというのがLIFE導入の狙いです。

医療においても早くからエビデンスに基づく治療が浸透してきました。例えば、胃癌であっても、乳癌であっても全国どこの病院でもエビデンスに基づいた同じ標準的治療が受けられます。同様に根拠に基づいた介護を導入することによって、どこの施設でも質の高い標準的なケアを受けられるようにすることがLIFEの大きな目的の1つです。根拠に基づく介護を行うためには、まずエビデンスを集めることが必要になります。しかし、現状では介護に関する主なデータは「介護レセプト情報」「要介護認定情報」のみで十分ではありません。みなさん、何か18年前の医療と同じと思いませんか？

では、LIFEで集めたデータをどのように活用するのでしょうか。例えば、利用者Aさんが入所型介護施設でリハビリを実施していて、そのデータを分析したところ、全国平均と比べてあまり効果が出ていないことが分かり、一方で栄養に関するデータを見ると、BMIが低く低体重であることが分かりました。この結果から利用者Aさんはリハビリ効果が出にくい原因が「低体重にあるかもしれない」と考察ができ、今後はリハビリ内容をそのままにして、食事内容が見直されることで、介護(ケア)の質の向上に繋がります。利用者にとってはどこの施設でも質の高い介護が受けられるようになることが最大のメリットで、自分にあった施設を選びやすくなります。また、現場で働く介護従事者にとっても介護(ケア)の効果が目に見える形で現れやすくなり、モチベーションが上がります。

これからは、介護でもデータの利活用が求められる時代です。医療の知識を持って診療記録を正しく理解しデータ化する知識は、介護でも必要な時代です。情報を利活用できる診療情報管理士が、近未来の医療や介護を支えていくことになるでしょう。

